

EU（欧州連合）との経済連携協定が大枠合意に到達した。大きいという見方もできる。日本にとって大きな成果である。貿易自由化というところ、どう思う。TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）が米国の離脱で漂流する中で、米国に匹敵す

日本の未来を語る

学習院大教授 伊藤元重



る経済規模であるEUとの経済連携協定が実現すれば日本にとって大きな利益が期待できる。EUの自動車などへの関税は米国よりも高くなっている。関税引き下げだけで見れば米国

の経済連携よりもメリットがあった。日本からの自動車の関税がゼロになるのは少し時間がかかるが、日本企業の不利な条件が解消されるのは喜ぶべきことだ。自動車は、世界規模で競争している。日本メーカーは欧州市場では劣勢だ。米国内

経済連携協定の恩恵

場への過度な依存の一本足打法のような状況だ。グローバルな競争力を確保するためにも、欧州市場での売り上げを拡大していくことが必要なのだ。さて、貿易自由化は内と外の供給者の間の競争が激しくなる

ということと同時に、外と外の間にも競争が激しくなる。輸入にも当てるはまる。欧州から豚肉やチーズの関税が引き下げられることで、国内の生産者への影響に注目が集まるが、実は、それだけその恩恵を受けることになる。外と外の間にも競争の影

は米国や豪州などの生産者も日本とEUの経済連携協定の動向に敏感になっているのだ。米国の豚肉製品は日本の輸入市場で大きなシェアを持っているが、品質の優れた欧州の商品の輸入が増えれば、売り上げを落とすことになる。当面は、米国を除いたTPPの締結を急ぐというところになるだろうが、その先には米国のTPPへの復帰、あるいは日米EUの経済連携に続いてTPPの締結についても日本が主導的な役割を演じていくことを期待したい。（いとう もとしげ）

*この記事・写真は産経新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。